

美馬市
二学期制検証委員会
報告書

平成24年1月17日
美馬市二学期制検証委員会

美馬市二学期制検証委員会報告書

目 次

1	はじめに	1
2	経 緯	2
3	二学期制がもたらす効果と課題の分析	2
	◇二学期制導入後の教育活動における効果	3
	◇二学期制導入後の教育活動における課題	4
4	ま と め	5

1 はじめに

美馬市では、平成17年度から美馬町内の幼稚園、小・中学校で、平成19年度から市内すべての幼稚園、小・中学校で二学期制が導入された経緯がある。

こうした動きの背景には、平成14年度から始まった完全学校週五日制による教科授業時間の縮減や、子どもたちの「生きる力」を育むために特色ある教育活動を推進した当時の「学習指導要領」において、子どもたちに時間的、精神的な「ゆとり」を必要としたことなどが影響を与えている。導入に至るまでには、住民や有識者、教員等で構成する「二学期制検討委員会」が設置され、そこではそれぞれの学期制がもつメリットとデメリットの比較や、二学期制を市内全域で実施することについて協議が行われてきた。導入から美馬町内の学校（園）では既に6年余りが過ぎ、脇町と穴吹町、木屋平の学校（園）においても4年余りが経過しており、美馬市における二学期制も定着しつつあると考えられる。

ところが、最近になって、学期制の見直しを行い、二学期制から再び三学期制に戻す学校が出てきたことが報道された。美馬市においても、児童・生徒の保護者を中心に学期制の見直しを求める声が聞かれるようになり、平成22年度には市PTA連合会が保護者と教職員を対象にした二学期制に関するアンケート調査を実施した。「三学期制が良い」とする回答が「現状維持」を大きく上回った結果を踏まえ、同連合会から市教育委員会に対し二学期制検証の実施が要望された。

本検証委員会は平成23年1月の発足からこれまで5回にわたり、二学期制導入時に期待された効果等についての検証、協議を重ねてきた。その中で「保護者がその効果を実感しづらいという理由は何か」といったことに着目し、アンケート結果の分析や各学校（園）の現状調査を行い、その原因の把握にも努めた。

本報告書は、その検証結果を総括したものである。

2 経緯

平成15年度	平成15年12月10日 旧美馬町で二学期制検討委員会を設置
平成16年度	平成16年4月1日 旧美馬町の芝坂幼稚園、芝坂小学校、美馬中学校で二学期制を試行
美馬市発足（平成17年3月1日）	
平成17年度	平成17年4月1日 美馬町内の幼稚園、小・中学校で二学期制を実施 平成17年6月22日 二学期制推進委員会（美馬町地区）の設置 平成18年3月 二学期制推進委員会（美馬町地区）が研究報告書を作成
平成18年度	平成18年9月19日 美馬市二学期制検討委員会を設置 平成19年2月7日 美馬市二学期制検討委員会が答申
平成19年度	平成19年4月1日 美馬市内の全幼稚園、小・中学校で二学期制を実施
平成22年度	平成22年9月24日 美馬市PTA連合会が市教育委員会に対し、二学期制導入効果の検証を求める要望書を提出 平成23年1月31日 美馬市二学期制検証委員会を設置

3 二学期制がもたらす効果と課題の分析

平成19年2月7日付「美馬市二学期制検討委員会」による答申書には、二学期制導入後の教育活動における効果及び課題としてそれぞれ8つの項目が掲げられている。

本検証委員会では、それらについて、市PTA連合会が実施したアンケート調査や市教育委員会が行った各学校（園）の現状調査結果等を踏まえて、3、4ページのように分析した。

◇二学期制導入後の教育活動における効果

- ①夏休み、冬休みの直前まで通常の学習活動が展開できること。
- ②全市が二学期制になることにより、学校間の諸行事が組みやすくなり、市全体での行事を行う上で効果が上がること。
- ③学期の長期化により、多くの資料をもとにした評価ができ指導に生かせること。
- ④学校行事の見直し・精選により、授業時数の確保が図れること。
- ⑤学力向上の支援の面から、長期休業期間における児童生徒の目的意識を持続させることができること。
- ⑥教職員の意識改革の契機となること。
- ⑦子どもと教職員に心のゆとりができること。
- ⑧中学校では、7月の総体・評価・面談にゆとりを持って取り組み、12月には進路指導に力が注げること。

分析結果

※【 】内は、上記の関連する項目番号

7月と12月の成績処理等の業務負担が減り、長期休業日直前まで学習内容を進めることができている。【①】

学期制は、市全体で開かれる行事の効果や、児童・生徒の転校があった場合等を考えると、統一されるべきである。【②】

第三学期の期間の短さが解消され、評価期間が長くなった。評価に関する児童・生徒の学習状況等の資料が豊富となり、自信を持って保護者への学習評価の説明責任を果たすことができるようになった。【③】

二学期制が導入されたことで、各学校（園）で行事等が精選された。その結果、授業時数が増えた。【④】

長期休業日期間における児童・生徒の目的意識の持続については、あまり持続できなかつたと保護者は感じているようだ。【⑤】

教員の学校（学級）経営や学力観、指導観の転換が実現したことや、学習の連続性という利点を活かした学習活動を展開しているなどの報告があった。【⑥】

授業時数が十分に確保できたことで教員に心のゆとりができ、その分子どもたちに関わる時間が増えた。【⑦】

特に中学校では7月の総体、12月の進路指導に力が注げるようになった。【⑧】

◇二学期制導入後の教育活動における課題

- ①学期の途中で長期休業日が入ることにより、学期が分断されてしまうこと。
- ②定期テストの範囲が拡大され、生徒にとって負担が増えること。
- ③秋に運動会を計画している場合、その期日が設定しにくいこと。
- ④小学校では、運動会の準備や練習で1学期末（9月下旬から10月上旬）が忙しくなること。
- ⑤二学期制を導入することで、変化やとまどいがあること。
- ⑥教師の都合で二学期制にすると誤解されやすい。
- ⑦通知票が2回となり、保護者に不安があること。
- ⑧評価の回数が減り、成績が十分でない子どもたちの挽回の機会が減ること。

分析結果

※【 】内は、上記の関連する項目番号

長期休業日が学期すなわち学習の継続期間であると捉えるより、学期を分断していると捉えている保護者が今でも多いようだ。【①】

定期テストの範囲が拡大されることで、子どもたちの負担が増えていると一部の保護者が感じているようだが、教員の聞き取りからは生徒のそういった不満等は特に無かった。【②】

運動会の期日が設定しにくいということについては、現実にそういった意見が聞かれたが、それが二学期制によるものなのか、地域の行事等その他の要因による影響からくるものなのかは明確にはならなかった。【③】

7月と12月の慌ただしさが解消された一方で、9月から10月にかけては期末テストや体育祭、文化祭、通知票の作成などで多忙になったと感じている教職員がいる。【④】

初めて二学期制を経験する教職員や保護者は、当初とまどいを感じるようであるが、その後に二学期制のメリットに理解を示す人もいるようだ。【⑤】

教員の都合で二学期制を導入したと誤解している人が一部で見られた。【⑥】

通知票が2回に減ったことで、長期休業日前に子どもの評価を知ることができず、それにより子どもの弱点が休みの間に克服できないと不安を感じている保護者が多くいた。アンケート結果では、三学期制を望む保護者の一番の理由は、ここにあると考えられる。いくつかの学校では、通知票に替わるものを長期休業日前に配布している。また、すべての小・中学校で長期休業日前や期間中に個人面談を実施しており、成績等についての詳しい説明に努めているようだが、過去の習慣からくる年3回の通知票による成績評価を期待する声は、依然として多いようだ。【⑦、⑧】

4 まとめ

検証の結果、ほぼすべての学校（園）で、期待された効果は現れている。行事の精選をしたことで、授業時数の確保ができ、その結果、きめ細かな指導ができるようになったことは大きな成果と言える。

一方、課題とされていた項目については、各校（園）で解消に向けた取り組みが行われているようだが、まだ不十分なところがある。とりわけ、通知票の回数が増えることに関しては、それに替わるものを長期休業日前に配布している学校と、していない学校があり、統一に向けた取り組みが必要かと思われる。同時に、二学期制導入後の教育活動における効果の中で「長期休業日期间における児童生徒の目的意識の持続」については、保護者の多くが持続できなかったと回答していることから、長期休業日前あるいは期間中に実施している個人面談において、保護者の不安が少しでも解消できるよう、教員による指導や説明に改善が必要と考える。

学力の向上については、教育課程の違いなどがあり、学期制により変化があったかどうかを実証するのは困難である。ただ、全国的には学力の低下が懸念されている中で、二学期制の導入によって授業時数が確保され、子どもと向き合う時間が増えたことは、きめ細かな指導につながるという意味において評価できる。

このほか、協議をしていく中で、「二学期制の導入理由やその後の効果等について、保護者や市民が説明を聞く機会がない」といった課題が見つかった。二学期制導入前は、広報紙等で二学期制のメリットやデメリットについての周知があったり、学校においても保護者への説明が行われていたりしていたが、教員の異動等もあり、そういった機会が年々減ってきたことは事実である。二学期制の効果がどういった形で現れているかが説明されていない現状では、三学期制で学生時代を過ごしてきた保護者が抱く不安やとまどい、誤解等は払拭されにくいと思われる。

こうしたことから、仮に美馬市が二学期制を続けていくのであれば、保護者や市民へ制度について周知する機会をもっと増やすべきである。例えば、年度当初における教職員の着任式や、各校（園）における入学（園）式や始業式といった機会を活用されたい。「どうして美馬市が二学期制なのか」また「どのような成果が上がっているのか」など、積極的に情報を提供することが重要である。

今回、検証委員会の設置によって、現状における二学期制の効果や課題を確認できたことは大変有意義であった。学期制の変更は大きな教育制度の転換であり、慎重な議論と周到な準備期間が必要である。

今後も検証を継続し、学期制の効果が最大限に生かされ、より良い教育環境が将来に向けて続いていくことを切望する。